

作新学院大学 経営学部 スポーツマネジメント学科の三つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

経営学部 スポーツマネジメント学科は、自ら学び、自主的に自らを律して行動できる人材を育成することを教育理念としている。その実現に向け以下の能力を身につけ、「共通教育科目」及び「専門教育科目」に関する単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士（経営学）の学位を与える。

また、資格の取得を希望する学生には、スポーツリーダー、健康運動実践指導者、健康運動指導士などの取得を積極的に支援する。

1. 建学の精神である「作新民」と教育理念である「自学自習」・「自主自律」の双方を理解し、かつ実践できる。
2. 「共通教育科目」と経営学部及びスポーツマネジメント学科に配置の「専門教育科目」と「実践教育科目」をバランス良く学修して、現代社会で通用する専門的な知識を身につけている。
3. スポーツと経営に関する体系的な学修を自らの力で設計・履修し、所定の単位を修得できている。
4. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見や研究成果を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。
5. スポーツ関連企業、一般企業（製造業・サービス業など）各種スポーツの指導者、公務員（一般行政職・警察官・消防士 等）などとして、現代社会の発展に貢献できる能力と信頼される人格を身につけている。
6. 地域社会が抱える課題に向けて主体的に取り組むことができる。

【カリキュラムポリシー】

1. 経営学部 スポーツマネジメント学科は、建学の精神と教育理念に基づく学部の教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成する。
2. スポーツを経営面で支える視点を基軸とし、「共通教育科目」（「初期導入教育科目」「リテラシー教育科目」「教養教育科目」とスポーツマネジメント学科に配置の「専門教育科目」（「基礎ゼミナール」「学部共通科目」「学科共通科目」）・「実践教育科目」をバランス良く学修することで、現代社会で通用する専門的な知識を身につけられる教育課程を設定する。
3. 経営に関する体系的な学修を学生が自らの力で設計・履修できるよう、授業の到達目標及びテーマ、準備学修、授業の概要及び受講計画、成績評価法等をシラバスの中に明示する。
4. アクティブラーニングの効果を高めるために、少人数制の授業や演習・ゼミナールを重視する。特にゼミナール（基礎ゼミナール1・2と研究ゼミナール1～6）は、2年生から4年生まで必修とし、担当教員が適切に指導する。
5. 演習担当教員は、クラス担任として学生一人一人と向き合い、学生の学修状況や生活状況、キャリアプラン等を把握して、適切な指導・助言を行い、現代社会の発展に貢献できる能力と信頼される人格を身につけさせる。
6. 教育課程の編成にあたっては、学生一人一人に対して4年間で履修する科目を通して獲得すべき能

力をシラバスに具体的に示し、実社会における課題発見や課題解決につながる能力の獲得を保証する。特に地域社会がかかえる問題解決に役立つ実践的な知識や能力の獲得を保証する。

7. スポーツマネジメントに関する演習を設定して、プロスポーツや地域スポーツや健康増進活動に関する実践的な学修ができるようにする。
8. 学修を円滑に進めるべく、「カリキュラムツリー」や「カリキュラムマップ」を導入し、学びの可視化を図る。
9. アクティブラーニングを支える諸施設（ラーニングコモンズや図書館、情報センターなど）を有効活用できるように、基礎ゼミナールや各学年で開講される研究ゼミナールにおいてその利用方法についての指導を実施する。

【アドミッションポリシー】

経営学部 スポーツマネジメント学科は、入学者として以下のような人を求めている。

プロスポーツの運営やスポーツビジネス、地域のスポーツ振興、スポーツを通じた健康増進啓発活動などに興味・関心を持ち、高等学校等において身につけた基礎的な知識や技能、思考力、表現力、主体性、協働性を、大学4年間の学修を通して、会社員や公務員、銀行員、スポーツに関わるビジネスパーソン、として就業・活動できる水準にまで向上させようという意志を持っている人。

【大学入学までに身につけておくべき主な科目の内容】

高等学校における基礎的な学力・実技能力、又は、得意分野に関する優れた学力・実績を身につけていること。

【国語】

基礎的な国語の知識、特に現代文の確かな知識。口頭や文章でコミュニケーションをとるための思考力・表現力。

【外国語（英語）】

基礎的な英語力。

【地理歴史】

基礎的な世界史・日本史・地理の知識。

【公民】

基礎的な現代社会・倫理・政治経済の知識。

【数学】

基礎的な数学の知識。

【職業学科（専門高校）】

得意分野に関する優れた学力・実績。

【総合学科】

得意分野に関する優れた学力・実績。

【入試区分ごとのアドミッションポリシー】

経営学部 スポーツマネジメント学科では、スポーツを経営面から支える事に興味・関心を持ち、高等学校等において身につけた基礎的な知識や技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性を、多様な方法で調べるため、以下の入試区分を設ける。

【AO入試・吹奏楽AO入試（第1回・第2回・第3回）】

〈AO入試〉

1. 当該年度に高等学校を卒業見込の人。
2. 本学への入学を第一志望とする人。
3. 志願書と面談及び出願書類により合否を判定する。

〈吹奏楽AO入試〉

1. 当該年度に高等学校を卒業見込の人。
2. 本学への入学を第一志望とする人。
3. 本学で吹奏楽の活動を行いたい人。
4. 志願書と面談及び出願書類により合否を判定する。

【推薦入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）】

〈一般推薦（Ⅰ期 専願・併願 Ⅱ期 専願）〉

1. 学業、人物ともに良好であり、高等学校全体の評定平均値が原則として3.0以上の人。
2. 出身高等学校長より推薦された人。（Ⅰ期にあつては専願・併願、Ⅱ期にあつては専願の人。）
3. グループ面接、調査書及び推薦書を総合して合否を判定する。

〈指定校推薦（専願）〉

1. 本学が指定する対象校に在籍する人で、出身高等学校長より推薦された人。
2. 学業、人物ともに良好な人。
3. グループ面接、調査書及び推薦書を総合して合否を判定する。

〈スポーツ推薦（専願）〉

1. スポーツ活動による顕著な功績を持つ人で、出身高等学校長より推薦された人。
2. 学業、人物ともに良好な人。
3. グループ面接により合否を判定する。

【一般入学試験（第1回・第2回・第3回）】

1. 当該年度までに高等学校を卒業又は卒業見込の人。
2. 当該年度までに高等学校卒業、またはそれと同程度の学力を持つ人。

3. 英語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現）と国語（国語総合〈現代文のみ〉）試験により合否を判定する。

【一般入学試験 センター試験利用（Ⅰ期及びⅡ期）】

1. 当該年度に大学入試センター試験に出願し、本学が指定した教科・科目を受験した人。
2. 当該年度までに高等学校を卒業又は卒業見込の人。
3. 本学が指定する科目は、「国語（近代以降の文章）」と「英語（リスニングを除く）」より1科目、「地理歴史（世界史B 日本史B 地理B）」と「公民（現代社会 倫理 政治・経済 倫理、政治・経済）」と「数学（数学Ⅰ・数学A）」より1科目とし、本学での個別学力試験は課さない。

【特別選抜入学試験 社会人・シニア】

1. 高等学校を卒業した人。
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した人。
3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、「高等学校を卒業した者又はこれに準ずる者」で、次の1)～4)のいずれかに該当する人。
 - 1) 外国において学校教育に12年の課程を修了した人。又はこれに準ずる人で文部科学大臣の指定した人。
 - 2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した人。
 - 3) 文部科学大臣の指定した人。
 - 4) 高等学校卒業程度認定試験に合格した人（大学入学資格検定合格者を含む）。